

昭和33年「銀座四丁目交差点」



繁華街の象徴・銀座。銀座の表通りは、他の商店街と違った先進性と、品位ある落ち着きを合わせ持つ。この魅力が、安定した顧客を確保しているのではなかろうか。銀座のランドマークとして親しまれる服部時計店の創業は、明治27年(1894)。名称が変わって現在の和光ビルは、戦後GHQに使われた第一生命館と同じ渡辺仁の設計で、昭和7年に竣工した。隣の、あんぱんの考案で有名な木村屋は、明治3年(1870)に芝で創業、明治10年に銀座へ進出した。その向かい側の銀座三越は、昭和5年にここに出店、すでに店を構えていた松坂屋、松屋の仲間入りをした。しかし、当時の営業時間を聞くと、朝の9時から夜の9時までと長く、競争の激しかったことをうかがわせる。この銀座も、昭和20年の連続爆撃で灰燼に帰し、焼けただれたビルもほとんど占領軍に接収された。そうして、日本一のこの交差点で、晴れ舞台の役者のようにさっそうと交通整理をするMP(ミリタリーポリス)に、すきつ腹をかかえた日本人が見とれていたものである。

昭和26年、講和条約が調印され、やっと銀座の外燈が許可になったときは、町の人の表情に明るさが戻った。それから40年、世界の銀座に育て上げた力は見事である。こうして、いつも華やいだ銀座が、ただ一度、昭和天皇大葬の日、人も車もまばらに冷たい雨に沈んでいた。

(昭和33年5月31日撮影)



晴海通りと中央通りが交差した銀座四丁目の交差点。銀座の名にふさわしく平日、休日関係なくウインドウショッピングを楽しむ人で溢れている。通り沿いに植えられた柳は、昭和43年に惜しまれながらも抜かれてしまい今はないが、大きく変化すること無くこの街は成長してきた。モガ(モダンボーイ)やモガ(モダンガール)が横行していた時代から、何年にも渡って最先端の流行を発信しているこの街は、いつの間にか繁華街の代名詞となった。日本国中の商店街で「銀座」の名が付けられている数多くの街が、それを物語る。 (平成11年11月9日)